



開物成務

令和8年5月15日(木)発行

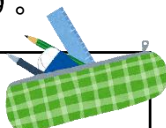
校長 大越 泰子

初めのうちは緊張していた1年生も、GWが明けてすっかり開成小学校に慣れ、元気に生活しています。いよいよ、なかよし班による清掃も始まります。今年は、異学年による活動を通して、さらに子どもたち同士のつながりを大切にしていきたいと考えています。様々な活動の中で、上級生に対するあこがれや、下級生に対する思いやり、自分たちで考えて行動する力など、学校ならではの学びに力を入れていきます。

全国学力・学習状況調査

4月23日(木)に全国の6年生を対象に行われました。普段のテストとは形式が異なるため、緊張した面持ちで国語と算数のテストに取り組んでいました。児童の回答からは、条件に合わせ、指定された文字数で自分の考えを書く問題や、文章問題に苦戦している様子が伺えました。

この調査の結果は、個人の点数だけでなく、開成小の児童の苦手なところを理解し、授業の中でどのように力をつけていくかを考える資料として活用していきます。



真剣に問題に取り組む姿。鉛筆の走る音だけが響いていました。

あいさつサポーター活動へのご協力

ありがとうございました

以前はPTAの校外委員さんが行っていたあいさつサポーター活動を、今年度からPTA会員の皆様に呼びかけました。お子さんと一緒にあいさつや見守りをしながら登校していただくようお願いしたところ、40名を超える方々にご協力いただきました。

《いただいたコメント(抜粋)》

・挨拶を返してくれる高学年が多くさすがだなと思いました。

・広がって歩いてしまうことがあるため、声かけの必要があると思いました。

・歩道が狭いため、大型車が通るときに怖い。

ご協力ありがとうございます。今後も危険箇所等、お気づきのところがあったらコメントでお知らせください。また、良いこともお願いします。

1年生おめでとう集会 4月30日(木)

企画委員会が中心となって開催しました。入学式と同じ6年生と手をつなぎ、音楽に合わせて入場した1年生は少し誇らしげでした。今日は「児童の 児童による 児童のための」集会です。1年生インタビューでは、4人の子がステージに上がりました。「お誕生日を教えてください。」という質問に「4月30日です。」と答えると、「今日じゃん!」とおめでとうの気持ちを込めた拍手が自然におこりました。開成小の良いところは、こういうところだと、しみじみ思いました。他にも「開成小のきまり〇×クイズ」もあり、在校生も楽しめるプログラムになっていました。各クラスからのメッセージがプレゼントされ、みんなで動画に合わせて校歌を歌いました。とても温かい会になりました。これで1年生も立派な開成小の一員です。仲良くしてくださいね。



5年生の米作りが始まりました 代かき

GW明けの5月7日(木)に、鳥海さんの田んぼで代かきを行いました。田植えをする前に、田んぼの土を細かく砕いて表面を平らにする作業です。水が入った田んぼは、ねちょねちょとして足がとられます。キャーという歓声があちらこちらで聞かれました。思い切り泥遊びができるのも、代かきの醍醐味です。ドロドロの田んぼを走り回り、土を混ぜ合わせました。19日には田植えを行います。5年生の米作りの1年が始まります。体験を通して作物を育てる苦勞と喜びを味わってほしいと思います。秋の収穫が楽しみです。



泥に向かって
タイプ！

3年生 町たんけん 役場見学

3年生は初めて社会科を学習します。3年生の社会科では、積極的に地域に出て、自分たちの町について学習します。そこで自分の家の近くを互いに案内したり、よく行く公園を紹介したりして、それぞれの地区の特徴を知ります。5月7日(木)は、開成町役場へ行き、教育委員会の上村指導主事の案内で、庁舎の中を案内していただき、どんな仕事をしているのか見学させていただきました。子どもたちは初めての体験に興味津々で熱心に説明を聞いていました。



教育委員会の所で
教育長さんが迎えて
くださいまし

2年と1年の 学校たんけん 5月11日(月)

2年生が1年生を案内して、学校たんけんを行いました。1年生はこれまでも学校たんけんを行っていますが、今回は、班ごとに分かれての行動です。2年生がしっかりと1年生と手をつなぎ「次は保健室だよ。」など、声をかけて校内を自由にたんけんしていました。各部屋の前で担当の2年生が、それぞれの教室の説明をしていました。1年生もその説明をしっかりと聞いています。2年生がすっかり先輩の顔つきをしています。「立場が人を育てる」大きな成長を感じた1時間でした。またお友達がふえましたね。



校長室の窓から

一次意識と二次意識

カウンセリングマインドという言葉があります。「受容・傾聴・共感」相手の立場に立って理解しようとする態度は、コミュニケーションの質を向上させ、信頼関係が深まるとされています。我々、教職員も、児童と接するときに大切にしていることです。しかし、私はそこにもう一つ大切な要素があると感じています。それは、本人が自分自身の思いを語る中で自分を振り返り、どうしたらよいか、どうしたいか、どうなりたいかという思いを作り出すことです。「やりたくない」「きらい」などの思ったまま感じたままの気持ちを**一次意識**と言います。しかしその気持ちにいくら共感しても、先はありません。「どうしたい?」と問いかけ、「じゃあ、仕方がない。やってみるか。」という**二次意識**を作り出させることこそが大切です。二次意識は作り出すものなのです。近頃は、この二次意識を作る力が弱まっているように感じます。「やりたくない」「きらい」「ムリ」自分の思いを素直に口にし、受け止めてもらえる環境にあることはとても幸せなことです。しかし、その一次意識のままでは、なんの解決にもなりません。その一方で、親や教師が「こうしたらどう? ああしたらどう?」と先回りするのも逆効果です。うまくいかなかったときに、その人のせいにしてしまうからです。自分自身で二次意識を作り出すことができる子どもは、この先の人生で困難に出会ってもきっと自ら乗り越えていくことでしょう。

私たちはそんな子どもたちを育てていきたいと願っています。